

## H22年度 第2回 高幡地域アクションプランフォローアップ会議の概要

日 時：平成23年2月8日（火）14:00～16:30  
場 所：須崎市総合保健福祉センター会議室1・2

### 1. 議 事

#### (1) 全体スケジュールについて

- ・今後の産業振興計画フォローアップのスケジュールについて地域本部から説明。

#### (2) 地域アクションプランについて

##### 1) 22年度までの取組状況等について

- ・22年度までの取組状況及び課題について地域本部から説明。

##### 2) 23年度に向けて

- ・23年度に向けた地域アクションプランの見直しについて地域本部から説明し、改訂の方向性を了承。

#### (3) 産業振興計画の改定等について

- ・産業振興計画の改定等について計画推進課等から説明。

### <意見交換>

○高幡地域以外で大きく成功した事例等があったらご紹介いただきたい。

→大きく動いているところでは、例えば幡多地域では、土佐清水で元氣プロジェクトによる水産物の加工品の開発や大分・中四国等県外への販路開拓、嶺北地域では、「土佐天空の郷」というブランド米への取組を進め、昨年度の「日本一おいしいお米」として紹介されて、爆発的な人気になっている。

○高幡地域もそれぞれの地域で皆さん、尽力されながら、工夫しながら、悩みながら取組をしていると思うが、地域別に産業振興計画を見た時に、高幡地域は計画100に対して、他の地域と比較して良くできているのか、何%くらいの率なのか、他の地域から見て高幡地域はまとまりがあるとか、進捗の経過的なものかどうか。

→他の地域と比べてどうかという話については、なかなかはっきりとは言えない。ただ、県全体として本部会議を開いて情報を出している。幡多地域のように大きな事業が動いているブロックと、私どものように余り大きくはないが、地域に根ざした、それこそ地域の取組の事業化に向けて進展している所など、地域によってさまざま。トータルでは、優劣というか、ここがこんなに進んでいるというものではないし、高幡地域が決して劣っているということではないと思っている。

ただ、1つ言えるのは、観光については他のブロックは広域連携の動きが出てきている。例えば仁淀川や物部、嶺北地域についても取組を始めるべく組織化されている。高幡の観光という意味では広域事務組合があるが、民間も含めた広域的な取組という部分では、若干違っている。これは197号線、56号線、それから四万十川流域といった高幡の地理的、地域的な問題もあると思うが、他のブロックではそういう取組が始まっている。

○良い所は県全体の中で共通点として伸ばしていくことが産業振興計画の大きな視点。高知県は、林業部門は全国でもトップクラスの森林率を誇り、取組も先進的に進んでいるといった全体に共通する部分や、他の地域のいいところを発表しながら、全体のレベルアップを図る検討をお願いする。

○地域アクションプランNO18 高幡ヒノキ等の加工、流通販売について、進んでいない報告だったが、高幡ヒノキは四万十ヒノキとしてブランド化して、これから売り出そうと四万十川流域の高岡郡2町、幡多郡1市1村の合計4市町村で2/28に協定調印式を行う予定になっており、滞っているわけではなく着実に進んでいることを申し上げたい。

それから、町をあげて海洋堂ホビー館四万十のオープニングに向けて頑張っているの、皆さんのご支援等もよろしくお願ひ申し上げます。

○津野町は、最終 23 年度に向けて大きな事業を構えており、国庫補助事業の導入に向けて取り組んでいるが、特に農水の関係など非常に厳しい状況なので、県の方も全面的にご支援いただきたい。

○中土佐町のハモの加工販売については、売上が殆どない状態が続いており致し方ないが、経営革新に現在計画の中で取り組むこととしており、認定を受けたらハモの販売を商工会でも力を入れて軌道に乗るように努力したいと思っている。

→まず、四万十ヒノキについては、加工販売の共同化事業を推進するアクションプランになっており、この部分については取組が進んでいないという判断をさせてもらっている。ただ、言われたように、ブランド化や販売促進などの部分については、取組まれており、そのことについて進んでないという判断をしているわけではないので、ご理解いただきたい。

→次に津野町の加工所の問題については、なかなか私の一存で言えないが、これまでも一緒になって農林部等への働きかけやらせていただいているので、なおまたそういうご意見を伝えて努力していきたい。

→ハモについては、現在のアクションプランが岡岩さんと上ノ加江漁協が一緒になって地元の資源を活用していくという視点のプランとなっており、関係者の意見を踏まえ、23 年度を目標として取り組んでいくという状況にないということで削除することにさせてもらっている。動きが出てくれば支援していきたい。

○四万十町で過疎化が進んでいるという話を聞いたので、1 つうちの事例を紹介させていただく。

うちは漁業なので、みんなで禁漁区を設けて漁場をつくり、全域で漁をして全員で売って、そのお金をもとに地域を活性化しようと今まで取り組んできた。結婚したらお祝い金を出す取組が功を奏して、始めてから 13 組の結婚相手と 25 名の子どもができた。外部へ出た人も 3 家族帰ってきて、33 名の子どもがいる。そうやって一生懸命みんなで努力して過疎にならないように努めてきた。みんなで一生懸命やれば何とかかなと思う。

○アクションプランの一番最初に挙げているハウスミョウガを含めた販路拡大、生産拡大については、昨年 J A 土佐くろしおさんが単独で日本で初めて 50 億の売上を達成されており、農協さん、農家の方には胸を張っていただき、大いに成果として誇っていいと感じている。環境問題を含めていろんな条件整備については県も市町村も一緒になって取り組んでいくべきではないかと思っている。

○みなさん、強い部分、弱い部分など持っていると思うが、例えば企画どく礼もんで言えば、やる気と物は近くにあるが経営や数字の部分、ソフトの部分が十分でない。そういう部分を分析する機関、分析する集団（ソーシャルビジネスを応援する NPO）が青森にある。高知県では県庁がそれをやられていると思うが、彼らは、青森公立大学の大学院生で統計学や社会学など、いろんな勉強のプロたちが集まっており、学術研究も兼ねて実施している。データを取って自分たちで研究して、それを実際の漁師のおばちゃんたちにいかに活かせるかということを楽しく、ゲーム感覚で、1 億 3,000 万ぐらいの経費をかけて、いろんなところを支援している。多分、我々のところやみんなのところ、特に小さいところを見ていると、強い部分と弱い部分が明らかになって、それをどう個別に支援していくかという分析を県庁なりにやられているが、県庁がどっぷり中へ入られると完全な味方になって分析が弱くなる、客観的に県庁内で数字だけ見られていると他人事になってしまう。やはりその事業体に合ったサポートというか、ここここをマッチングするといったことが必要。今、我々は葛岡アドバイザーに経理を習っているが、プロ的に数字を使った統計やデータを使って攻めるとなると、もっとプロ集団が必要になってくる。青森は、高知県と一緒にペリから 5 番目以内の経済圏だという認識があったので、彼らの話を聞いてびっくりした。県庁の方々が一生懸命やられている部分で、一緒にサポートしてくれる組織をもう少し手厚くつくられた方が、我々も助かるし、県庁も 3 ~ 4 年で担当を替わられる場合が多いので、その後の民間同士のフォローも含めて組織をつくられた方がいいのかなというのは、ここ 3 年ぐらいやった中で、感じたところなので参考になればと思う。

→高知では NPO の支援する団体というのがあり、個々の女性を中心に支援する団体や IT 関係を支援する団体、あるいは企業を支援する団体もある。県で言うと「目指せ！弥太郎商人塾」という人材育成事業で、今年度は特に重点的に人材育成の方で経営等アドバイスいただくという方をたくさん入れている。

先ほど話のあった大学とかで専門的に統計的に分析をしていただく形のタイアップというのはできていない。

来年度の改定の柱に産学官連携を掲げて大学との共同での産業振興ということを目指していこうと思っており、参考にさせていただく。

○できれば個別にこういう先生がいて、来たら教えてあげるよという形ではなくて、彼らは、小さなカフェであったり、地域おこしの集団であったり、そこへ入っていろいろなデータを自分たちで取ってきて、どこが悪いのか弱いのかというのを、経理であれば経理のスタッフを派遣してという、完全に個別対応で強くしていくというシステムを取っている。

今の県の総合的に人材を育てるのは、やる気のある者であればそこへ行ってやるけど、ただその人たちがどれだけ実力がついたか判断しようがない。とりあえず来て聞いてくれというバラマキではないが、パーッと光を当てる方式。今アクションプランでこれだけの項目があって、これをどう仕上げていくかという段階で、抽出的にここはこれとこれが弱いからどういう人間をマッチングして、あと3年5年計画を正していくか、それぞれのマッチングができればいい。我々も含めて高知県人は自己分析が弱い。自分の弱いところを突かれると噛みついてしまう部分もあるが、敢えてやっていただいで強くしていただく。それには誰と組めばいいのか。自分たちはできるだけ外には出ているが、多分、田舎のおばちゃんたちはもっと出られない。その部分に少し手を入れて、伸ばし合ったら個別がもう少し伸びるのかなということを感じているので、高知県庁や市内で会を開くというのもありがたいが、県庁の担当の方だけが一生懸命頭を悩ましながらやっているという状態に、個別にもっとどんどんスタッフが付いてサポートしていければ、もっと面白いことができる気がする。

○高知県のアンテナショップ「まるごと高知」について、営業に重点をおいて、デパート、スーパー、コンビニ等に試供品を持って東京中の店を回って注文を取るようにしたらいいと思う。東京以外に大阪、名古屋、北九州、札幌と5大都市を1年に1都市ずつ営業する。ものが売れば農業も漁業も林業も後継者ができて、頑張ってもらえるようになるので、営業の方に頑張ってもらいたい。

→九州、札幌もという話もいただいたが、まずは首都圏から、そして関西圏、中部圏とやっている。順次どんどん開拓してやっていきたい。ただ、精力的にどんどん売っていききたいが、物が不足しているところがある。産品全体の供給体制について、ご支援をお願いする。

○産業振興計画の改定について、5つの柱の中に今後の重点的な取組ということで、1次産業から2次、3次産業を携えた6次産業の促進に向けて事業経営の確立支援が掲載されている。久礼新港の利用としてアクションプランに位置づけさせていただいているが、23年度には本格的に新港の複合施設の展開に入る。基本計画、実施設計については、産業振興総合補助金の導入は難しいと思うが、施設建設に至る時にはぜひご支援いただきたい。

→新港後背地の活用についても、一緒に話をお聞かせ願っているのでも、これからは連携を密にしながら、一番いい補助金は何なのかということも含めて一緒に検討していきたいのでよろしくお願いする。

○後継者が漁業も農業も増えているという説明があったが、そんな話は初めて聞いた。本当か。

→農業など全体としてはどんどん減っている。ただ新規の就農者だけ捉えたら、新規の就農者が去年よりは今年増えているという状況。なお、林業は全体の従事者が増えている。

○要望になるが、改定の柱の「5地域産業の育成と、事業化支援の強化」の中の今後の重点的な取組で、建設業の新分野進出への促進について、県としても県全体の課題として、独自の政策や国に対して強力な支援をぜひお願いしたい。雇用の確保からみれば建設業に負うところが非常に多く、地域経済全体の波及効果も出てくる。四万十町の場合は87%が山林なので林業への建設業者の参入について積極的に推進していく考えも持っている。

→建設業の新分野進出については、農林業や介護、福祉分野など、人が不足する分野への進出についてうまく支援ができたらと思っている。ただ、やはり新しい分野に進出するにはかなりのエネルギーと準備、対応が必要になるので、実態を調査し、ご相談も受けてしっかりした支援体制をもって臨んでいく形で進めていきたい。

○木質バイオの利用について、ペレットを作ることも大事だが、ハウス園芸の一番の課題は化石燃料の値上がり。  
産学官の連携も含め何とか重油に対応できるボイラーの改良、開発を県として強力に取り組んでいただきたい。  
→ボイラー開発、改良については、今後の重点的な取組にも掲げており、しっかり取り組んでいきたい。

<座長まとめ>

本日の会で委員の皆さんからいただいたご意見については、事務局でさらに精査し、4月からの円滑なスタートにつなげていけるように調整をお願いします。

このプランは決して県の問題だけでなく、市町村も民間もそれぞれが本当に真剣に考えて取組まなければならないと思っている。そういった覚悟で取り組んでいくので、ぜひいろんな形のご指導もいただきたい。

先ほど観光振興の関係で、高幡地域の広域連携が少し弱いという指摘をいただいた。各首長さんがおいでしているが、そのとおりだと思う。私どもは高幡広域事務組合で取り組んでいるが、計画はできるが具体になると難しい。県の立場として広い立場で遠慮なしにご指導いただきたいし、そのことをご期待申し上げたい。本日せっかく揃ったので、お互いの連携をどうするか、どうやって取り組んでいくか、ご相談もさせていただきたいと思っている。23年度が正念場ということは結果を出すということだと思うので、私も取り組んでいくので、ぜひ皆さんも頑張ってください、県にもご指導いただきたい。

地域アクションプラン等については、これまでの取組とその取組をふまえた23年度の改定に向けて、本日いただいたご意見、ご提案を受けて最終案としてとりまとめることです承。